

農大だより十四号

発行：平成 25 年
8 月 9 日
栃木県農業大学校
〒321-3233
宇都宮市上籠谷町
1145-1
TEL：028-667-0711

確かな人材の育成を目指して

栃木県農業大学校長 北山 勉



この四月に校長として赴任しました北山です。職員と力を合わせ、引き続き本県の次代を担う優れた農業者の育成に尽力して参りますので、よろしくお願ひします。

今年度の入学式は四月四日という新年度がスタートして間が無い中での挙行となりましたが、栃木県議会、後援会、同窓会を始め、多くのご来賓の皆様のご臨席をいただき、無事終えることができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度も四ヶ月が過ぎ、本科の新入生も学校生活や寮生活にも慣れ、授業や自治会活動に意欲的に取り組む姿勢も見られるようになってきました。また、二年生は、就農の準備や就職活動など、今後

の進路を決定する上での重要な時期を迎えようとしています。一人でも多くの学生の希望が叶うよう、職員共々努力して参りたいと考えております。

研修科では、「とちぎ農業未来塾」に昨年度を上回る百十二名、「とちぎ農業ビジネススクール」に十九名の受講生をお迎えし今年度の研修がスタートいたしました。最近の農業に対する関心の高さを実感すると共に、本県農業者の育成に携わる者として心強く思っているところです。

学生自治会活動としては、学生自治会総会、スポーツ大会などの行事を実施いたしました。中でも東関東スポーツ大会において、サッカー及びバドミントンで

優勝、軟式野球で準優勝するなど、輝かしい成績をおさめることができました。

現在の農業を取り巻く状況は、担い手の減少・高齢化、耕作放棄地の拡大等に加え、原発事故に伴う農産物検査態勢の強化やTPP問題など様々な課題に直面しておりますが、本校で確かな農業技術を習得し、併せて自立した人間性の涵養を図れば、必ずや未来は拓けてくるものと思っております。

本校は百八年目を迎えますが、今後とも時代の要請に的確に応えるため日々精進して参りたいと考えておりますので、後援会、同窓会及び関係機関の皆様には、引き続き本校へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



キャンパスライフ

(25年4月～7月)



学生自治会総会

四月十九日、講堂兼体育館で開催され、平成二十四年度の事業・決算が承認され、今年度の農大祭などの事業計画・予算案が可決されました。

総会にあたり、中島佑人会長から「充実した活動をし、楽しく有意義な学生生活になるよう頑張りたい。」とあいさつがありました。今後の活動が期待されます。

熱戦! 「春季・校内スポーツ大会」



五月二十一日に恒例の春季スポーツ大会が開催されました。「農業経営+畜産」と「園芸(野菜・花・果樹)」の二グループから、それぞれA・B二チームをつくり、計四チームで競いました。天候にも恵まれ、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトボール、綱引き、クロスカントリリー(クロカン)の6種目が行われました。クロカンは職員チームも参加するなど、学生と職員と一緒に競技を行い、大変白熱し、盛り上がったスポーツ大会になりました。

「第二十六回農業大学 校東関東スポーツ大会」 (鯉淵学園農業栄養専門学校開催)

五月二十四日、第二十六回農業大学校東関東スポーツ大会が茨城県で開催されました。



会場は、国営ひたち海浜公園の近くにある、ひたちなか市総合運動公園と那珂湊総合運動公園の二つの会場で、とても本格的な施設で行われました。参加校は栃木県農業大学校ほか、茨城県立農業大学校、千葉県立農業大学校、鯉淵学園農業栄養専門学校との四校で、七種目を競いました。

当日は、晴天の暑い中、屋外や、

体育館内で、熱戦が繰り広げられました。競技中の学生は、いつにも増して、真剣なまなざしで、生き生きとしていました。

【本校の成績】

- サッカー 優勝
- バドミントン 団体 優勝
- 軟式野球 準優勝
- テニス 団体 第三位
- 個人男子 第三位
- (園芸経営学科果樹専攻 二年 尾崎 拓海)
- バスケットボール男子 第四位
- 女子 第二位
- 卓球 団体 第四位
- 個人男子 準優勝
- (畜産経営学科二年 小埜 篤史)



先輩からアドバイス 「就農促進シンポジウム」開催

本科2年生への就農意欲向上及び4日活動など地域活動への積極的な参加を目的として六月十三日に行われました。

既に就農した卒業生を講師に招いて全体会、分科会に分けて講師から経営内容や就農の動機、学生時代の経験談を説明され、在校生との意見交換のなか、就農に向けたアドバイスをを行いました。

将来先輩方のように地域で活躍できるように期待しています。

講師としてお迎えした卒業生は次の方々です。(氏名、出身地、卒業年度、学科・コース、経営内容)

- ・ 船山瑛子さん、那須烏山市、二十一年、作物、米+麦+大豆
- ・ 梁島亮太さん、壬生町、十九年、園芸・野菜、いちご
- ・ 宇土平和幸さん、下野市、十七年、園芸・花き、コチョウラン
- ・ 中山陽樹さん、那須烏山市、十七年、園芸・果樹、なし+米+ラジコンヘリ
- ・ 田島大典さん、佐野市、十五年、畜産、酪農



講 師

寮生会 レクリエーション活動 「ボウリング大会」開催

七月二十日、寮生の親睦を深め、明るく楽しい寮生活が送れるよう寮生会事業部が中心となり、「ボウリング大会」を開催しました。



学生たちの授業実習風景 明日の本県農業を担う責任と期待に答えて

○農業経営学科

二年生二十五名に新たに一年生二十三名を加え、合わせて四十八名の学生が在籍しています。

農業経営学科では、土地利用型作物(水稲・露地野菜等)についての知識技術の習得に努めています。一年生では小麦の収穫等、栽培の基本を中心に農機具の安全な使用方法について学び、二年生になると各専攻(水稲・露地野菜・加工)に分かれ自主的な学習へと発展します。



〈水稲〉

水稲専攻では、学生の興味のある課題を卒論の課題として設定しています。今年は昨年に引き続き鉄コーティング直播等に取り組んでいます。

〈露地野菜〉

露地野菜専攻では「かぼちゃの空中栽培」「堆肥を利用したトウモロコシの比較栽培」等、新しい技術・奇抜な栽培方法の検討に取り組んでいます。

〈加工〉

加工専攻では、農大産のトマト・イチゴ等を用いて加工品の研究を行っています。

写真は、卒業論文で取り組んでいる「水稲の鉄コーティング直播」と「空とぶかぼちゃ」の様子です。



○園芸経営学科野菜専攻

二年生十四名に、一年生十七名が加わり、いちごとトマトを主に、きゅうりなどの施設野菜について、学んでいます。

一年生は、慣れない新生活から、多少体調を崩す学生もありましたが、今では、農大の学生として、すっかりなじみ、実習では、暑さに負けず、元気に頑張って取り組んでいます。

二年生は、手際よく実習を進めています。課題研究のための生育、収量、品質等の調査も終了し、これから、調査結果のとりまとめ、考察が始まります。
写真は、トマトの収穫の様子です。



○園芸経営学科花き専攻

二年生十名に、一年生八名が加わり合計十八名の学生がキク、ユリ、トルコギキョウ等の切花や、シクラメン、洋ラン等の鉢花栽培に取り組んでいます。栽培方法や経営管理について学習しています。

写真はトルコギキョウの出荷準備の様子と、シクラメンの生育調査の様子です。



○園芸経営学科果樹専攻

二年生十名に加え、新たに一年生三名が入学しました。

この十三名がナシ、リンゴ、ブドウ等の果樹の栽培や経営管理について学習しています。一年生は各種果樹の基本的な性質や栽培方法を講義と実習により習得します。

二年生は課題研究に取り組んでいます。ナシの課題に取り組む学生が七名、リンゴが二名、ブドウが一名です。

今季節はブドウの袋かけが終了し、作業が一段落したところで、写真はブドウの袋かけと誘引の様子です。



○畜産経営学科

新一年生七名が入学し、二年生七名と併せて少数精鋭の十四名とになりました。

今年は、例年に比べて分娩が多く、一年生は子牛の管理を基礎から学んでいます。

また、自給飼料生産においては、各種機械を駆使し、ロールベールサイレージ調整を学んでいます。



社会人としての知識と教養を目指して

放射性物質講座

放射性物質に関する基礎知識や安全・安心な農産物の生産について学習するため、獨協医科大学 R I センター放射線管理部 高橋克彦先生及び県農政部経営技術課、経済流通課の職員を迎え、「放射性物質理解促進講演会」を開催しました。講演には本科一年生全員が参加し、放射性物質の基礎、人体への影響、農産物の放射性物質低減技術、モニタリング検査等について真剣に学びました。

「オープンキャンパス」開催

六月五日（水）に、県内農業関連高校七校の生徒七十七名が、本校を一日体験しました。

生徒たちは、学校の概要説明や、ほ場・実習施設などの見学、学生食堂での昼食、各出身高校の先輩たちとの交流交歓、希望学科の専攻実習見学など、学生生活を体験しました。

八月七日（水）には、農業大学

校入学に関心のある方を対象にした「第二回オープンキャンパス」を開催します。



これからの主な行事

(平成25年9月～平成26年3月)

- 先進的経営体実習 (本科学生)
八月二十三日(金) ～九月三十日(月)
- 意見発表会
十月十八日(金)
- 秋季校内スポーツ大会・収穫祭
十一月六日(水)
- 第三十七回農大祭
十一月二十三日(土) ～二十四日(日)
- 防災訓練
十二月六日(金)
- 本科卒業論文発表会
一月三十一日(金)
- 卒業式
三月十四日(金)

平成26年度 学生募集 について

栃農大 君が輝く 第一步

本県農業の次代を担う資質の高い農業経営者を、実践的教育により育成するため、学生を募集します。

出願期間

- ・ 推薦入学試験

九月十三日(金)

～九月二十七日(金)

- ・ 一般入学試験前期

十一月二十五日(月)

～十二月六日(金)

- ・ 一般入学試験後期

二月六日(木)

～二月十四日(金)

試験期日

- ・ 推薦入学試験

十一月一日(金)

- ・ 一般入学試験前期

一月十日(金)

- ・ 一般入学試験後期

二月二十七日(木)

推薦及び前期試験の合格者が募集人数に達した場合は、後期試験を実施しない場合があります。

合格発表

- ・ 推薦十一月十五日(金)

- ・ 一般(前期) 一月三十日(木)

- ・ 一般(後期) 三月四日(火)

研修科の紹介

研修科は、農業の担い手を目指す意欲ある人に対し、農業経営に必要な基礎知識の習得、農村起業活動を支援するための研修や農業経営者としての資質の向上を図るための研修並びに農業機械利用に関する研修等を実施しています。

1 就農準備校「とちぎ農業未来塾」





とちぎ農業未来塾は、平成十九年度に開校し、今年度で七年目となります。

今年度は、四月十一日から、延べ百二十七名、実百十二名の研修生が将来の就農への希望を持って研修をスタートしました。

研修生の経歴は様々で、年齢的にも十代から六十代までと幅広くなっています。

◎定年帰農希望者研修

平日の受講が困難な勤労者等を対象に、土曜日に開講します。研修期間は四月から一月で、基礎的な栽培技術に関する講義並びに作物栽培及び農業機械に関する実習を行います。研修生は、県内各地から集まった三十八名です。

◎新規就農希望者研修

①基礎コース

研修期間は四月から三月で、基礎的な栽培技術に関する講義並びに作物栽培及び農業機械に関する実習を行います。研修生は、県内外各地から集まった四三名で毎週木曜日に研修を実施しています。

②専門コース

研修内容は、各作目に関する専門的な栽培技術に関する講義と実習です。昨年度から、研修成果の実践力を考慮し、専攻の構成を一部組み替えました。研修生は、県内外各地から集まった四六名です。いちご、施設野菜、露地野菜



及び果樹の各専攻に分かれ、毎週月水及び金曜日、研修を実施しています。

2 食と農の起業家養成 研修

本県が推進する食の街道づくりや農業の六次産業化を支援するため、農村起業グループ、起業を希望する農業者を対象に実施します。農村起業に関する考え方や近年の動向等の概論を学ぶ基礎講座に加え、惣菜や菓子等加工技術の習得並びに食品加工所の管理運営に必要な制度を学ぶ専門講座の全四回の研修を予定しています。具体的な内容の公表と研修生の募集はこれからです。

3 とちぎ農業ビジネス スクール

経営意欲のある農業者に対して、農業経営者としての資質の向上を図るための研修です。経営の高度化を目指す農業者を対象として、経営に必要な専門的な知識を学ぶと共に、経営コンサルタントの指導の下、受講生自らが経営課題を整理・分析し、今後の経営発展を図るための「経営改革プラン」を作成し、実践につなげていくことを目指します。全国で活躍する専門家を講師として迎え、経営者としての意識改革を促すと共に、販売戦略や財務・労務管理等の専門的な知識・技術に関する講義・

演習をとおして経営の高度化が図れるプロ農家を育成します。

本年度は、県内各地から十九名の研修生が集まり、七月二日に開講しました。研修は来年三月までに十八回開講する予定です。

4 農業機械研修

農業者及び就農予定者を対象とし、農業機械利用の専門的知識技能について研修します。

①農業機械士養成研修

農業機械の効率かつ安全な利用に関する高度な知識・技術の研修(前期)及びけん引免許の取得(後期)で構成されます。

②農業機械安全効率利用研修

農作業事故防止、トラクター・コンバイン等の保守管理技術と作業技術についての研修です。



「農の心発信地」

希望への道 大きな輪を

栃木県農業大学校

栃木県農業大学校

同窓会会長 鈴木 源男



同窓会コーナー

今日、農業農村は、さまざまな課題が山積されております。東日本震災、原発事故、TPP、不安定な気象等。大自然をコントロールすることは不可能だが、それ以外のことは、必ず達成できるものであると信じた。

中央では、ここにきてやっと農業農村の活力プラン等の議論がスタートしたようだ。については、地域の意見を充分聞き、現場の実況を把握しつつ活力ある創造プランをとりまとめるよう要望したい。

「農業なくして国の繁栄はない」ことをよくよく考えるべきである。本県では「新とちぎ元気プラン」の推進として、農産物の安全安心のPR、人材育成等積極的に進められています。転換期にきているこれからの農業は、特に世界の動向を監視する必要があると思います。

成功の秘訣の中で最も重要なことは「人とうまくやっていく方法を知っていることである」これはアメリカ第二十六代大統領セオドア・ルーズベルトの言葉である。

又「仕事ほど人を活気づけるものはない」とよく聞かされる。農業農村が発展するためには、農業実践者、経営者、指導者の熱意が根源的条件でしょう。学問や知識より大切だと思えます。これらを支援するのは、同窓会として、一つの役目でありましょう。さらに農大の充実発展に協力すると同時に同窓会の「すそ野」の活性化を図って更なる強化策と未結成地域の支部結成を図りましょう。農の絆を深めましょう。「持ち味を生かせば、みな役に立つ」輝く農大、農の心、農の風が「とちぎの絆」となって発展します。会員の皆様よろしくご協力をお願いします。秋には恒例の農大祭が盛大に開催されます。県内外から毎年多数のご来校者があり、同窓会コーナーを工夫して設置いたします。会員の皆様のご来校を心からお待ちしております。

夢と希望のある母校。農のこの鐘のなる清い原の丘農大に重ねてご協力をお願いします。

平成二十五年度同窓会

事業計画

- ・入学式、卒業式への出席
- ・同窓会入会式への出席
- ・役員会・総会開催
- ・全国及び関東ブロック同窓会長会議出席
- ・農大だより(同窓会コーナー)作成
- ・「農業大学校に関する要望書」を県へ提出
- ・農大祭(十一月二十三日、二十四日)への参加

活動方針

- ・結成支部の強化を図るとともに、未結成支部の早期結成を推進し、同窓会の強化を図る。
- ・農業大学校の実践教育・学生募集等に対する協力及び援助を行う。
- ・会の発展と円滑な運営を図るための役員会等を開催する。
- ・その他、同窓会の目標達成に必要な活動を行う。

*詳細は、農業大学校ホームページ(同窓会コーナー)をご覧ください。

同窓会入会式

三月十四日、鈴木源男会長出席のもと、平成二十四年度同窓会入会式が挙行され、本年度は本科卒業生六十八名を新入会員に迎えました。

在校生を代表して野菜専攻に在籍している中島佑人さんが、「先輩方は、講義や実習、寝食を共にして友情を深めあつた寮生活、地域の農業者の仕事に対する熱意を肌で感じた先進的経営体実習など、数多くの思い出が浮かんでくる事と思えます。私達が農大生としての自覚を持って学生生活を送っていますのは、先生方の御指導もありですが、時には厳しく、時には優しく御指導いただいた先輩方のおかげと感謝しております。先輩方が築いてこられた農業大学の良いところを引き継ぎ、より充実した学生生活を送り、先輩方のような担い手として活躍する人材になることを誓います。先輩方には御卒業後も折りに触れ、私達を御指導くださるようお願い申し上げます。卒業生皆様方の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。」と、挨拶しました。

オランダで描く夢

平成二十四年度 本科

畜産経営学科

卒業

清永

美香



私は今、国際農業者交流協会が主催する海外農業研修でオランダ農業研修を行っています。三月に渡欧し、初めの3週間はホストファミリーと過ごしながら語学や生活や文化を学びました。現在はオランダの北部でチーズ製造と酪農の研修をしています。

私の研修農家は家族経営で、搾乳牛約八十頭を飼育しており、ゴードチーズとエダムチーズを作っ

ています。仕事は主にチーズ製造で、最近は搾乳もさせてもらっています。その中で、私が日本と全く違うと思ったのは、オランダでは沢山の人が農業に関心を持っているということ。多くの農場は農場解放日をもっており、その日は誰でも農場を見学できます。近所の人はもちろん、遠い所から来る人が沢山いて、お祭りのような賑わいです。そこでいちばん目に付くのは家族連れや友達と来ている子供達です。楽しそうに農場を見学している姿は、日本ではあまり見られない素晴らしい光景でした。小さい時から少しでも農業



に触れることで、大人になっても関心を持っているのだろうと思います。

私が酪農に興味を持ったきっかけは些細なことでしたが、なんとも思っていなかった酪農という存在が、勉強していくうちに自分の中で大きく変化しました。そして、沢山の人と出会い、繋がりをもちることができました。この海外研修も、迷っていた私の背中を押し、私に期待してくれている沢山の人ののおかげで実現したことだと思っています。

私が学生の間に大切にしていたことがあります。それは、人との

関わりと、色々なものを見ることです。少しでも興味をもったら、積極的に農業関係のイベントに参加し、沢山の人と対話しました。そして、全てのきっかけというものは自分自身から湧いてくるより、他者との関わりや外部との対話の中に多いと気づきました。私を信じ、きっかけをくれた人達に次は私がきっかけをあげられるように、この一年の研修を有意義なものにし、夢に向かって頑張りたいと思います。



五月三・四・五日・J A E C オランダ・ドイツ北地域派遣の研修生の春季会合でドイツへ